

俺が書いた女

中野
劇団

俺が書いた女

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

嘉田洋治

永井未希子

リビング。家主の嘉田、来客の未希子が対峙して座っている。

嘉田 ……面白いな。

未希子 ……面白い？ 不謹慎じゃないですか？ 人が真面目に話してるのに。

未希子の免許証を返す嘉田。

嘉田 この免許証、本物ですか？

未希子 本物ですよ。

嘉田 作れるんじゃないか？ こういうのって。

未希子 本物に決まってるじゃないですか。

嘉田 永井未希子……。

未希子 はい。名字は小説には出て来ませんでしたけど、名前の未希子は

漢字も同じです。

嘉田 たまたま同じ名前だったから、こういうことを思いついたのか。

未希子 嘉田さん、質問に答えてくれませんか？ 何処で私のことを知っ

たのか。

嘉田 いや、だから知らないって。

未希子 やめて下さいよ。嘉田さん。あなたの書いた小説、最後まで読み

ましたけど、どう考えたってあれは私のことです。たまたま同じ

名前だったってレベルじゃない。何処で私のことを知ったのかは

存じませんが、私のことを勝手に調べて小説に登場させるなん

て。どうやって私のことを調べたんですか。私のことを知ってる誰かに聞いたんですか？

嘉田 ……ブレないなあ。君は役者か何かか？

未希子 だから未希子だって言ってるじゃないですか。

嘉田 未希子は僕が考えた、僕の頭の中から生まれたキャラだ。どうやって作り出したかも構想段階からのノートがあるから、それでいくらでも証明できる。

未希子 いい加減にふざけるのやめてもらえませんか。名前だけならまだしも、無数にある職業の中で結婚式場で働いているってところまで一緒なんですよ。ここまで偶然なんてあり得ますか。人のことコソコソとこんなに調べて。

嘉田 僕の書いた小説を読んだならわかるだろ。未希子が結婚式場で働いているのは元恋人が自分の式場で結婚するって設定があるからですよ。

未希子 私の質問に答えて下さい。

嘉田 何が。

未希子 何処で私のことを知ったのか。

嘉田 今だよ！

未希子 は？

嘉田 君が今日突然やって来たから知ったんだ。こんなことをして何が目的なんだ。金か。自分が小説のモデルだから使用料くれってタカリにきたのか。

未希子 私のことをどうやって調べたかを教えてほしいって言ったじゃないですか。私の身近にいる誰かが私の情報をあなたに今も提供しているのかと思うと私は安心して夜眠ることもできません。だったら私が直接先生にご報告しますよ。その日、誰と会って何をして、何を思ったか。それならまだ納得できる。勿論協力する場合はそれなりの報酬はいただきますけど。もしこれ以上しらばつくれるなら、警察に掛け合います。ストーカーの被害届を出します。

嘉田 何を言ってるんだ。僕は完全に想像で未希子を書いたんだ。そん

な人物はいない。

未希子 そんなわけないじゃないませんか。あんなに具体的に書いておいて。

嘉田 僕の本を読んで、それで合わせて言ってるだけだろ。

未希子 血液型がA型っていうのも一緒なんですよ。

嘉田 日本人の三割以上はAだよ。考えてみてくれ。もし僕が本当に君の個人情報をこっそり調べて僕の本に登場させるなら、流石に名前は変えるだろ。

未希子 ……いつかバレるかもしれないってスリルを味わいたかったからじゃないんですか。

嘉田 どんだけバカなんだよ僕は。逆に聞くけど、君は本当に結婚式場で働いてるのか。その証拠はあるのか。

未希子 そういうことを聞かれるかと思っ…。

アルバムを見せる未希子。

未希子 今まで私が担当した新婚さんたちです。

嘉田 こんなアルバム何処かで借りて来たのかもしれないだろ。

未希子 ここに私が写ってます。

嘉田 どれだよ？

未希子 これです。

嘉田 小さくてわからないよ。

未希子 こっちはどうですか。

新婚さんとスリーショット。女はスタッフっぽいスーツを着ている。

嘉田 これだけ誰かに頼んで撮らしてもらったんじゃないのか。

未希子 何のためにそんな手の込んだことを。

嘉田 こうして俺を陥れるためだろ。

未希子 そんな利のないことしませんよ。

嘉田

仮に百歩譲って君の名前が本当に未希子で結婚式場で働いているのが本当だとしても、ただの偶然だ。未希子は僕が一から考えたキャラだ！ 誰にもヒントをもらってなんかいない。

未希子

そのわりには私の仕事のこと随分お詳しいじゃないですか。

嘉田

それは結婚式場で働いてる友達に話を聞いたり、ネットで調べたりしたからですよ。

未希子

主人公の「僕」って先生のことですよね。

嘉田

？

未希子

小説家で、未希子のことをコソコソ調べて小説に書いている。自分がストーリーカードだって自分の小説の中で告白してるじゃないですか。

嘉田

そういう風を書いてるだけですよ！ フィクションです。ホント面白いこと考えるな。よくできすぎてて感心するよ。

未希子

公園で泣いてる私を見かけたのが最初の出会いで、それから気になつて。

嘉田 だから小説でしょうが。

未希子 私の住んでるところまで調べて。気持ち悪い。

嘉田 調べてないよ。君が何処に住んでるか知らない。君こそ僕の住んでる所をどうやって知ったんだ。

未希子 調べました。

嘉田 気持ち悪いとかよく言えるな。

未希子 もし私のことを調べたのではないとすれば、私は本当にあなたが生み出した登場人物ってことになります。

嘉田 何言ってるんだ？

未希子 だってそうでしょう？ ここまで偶然が重なることはあり得ない。あなたが私のことを調べて書いたのではないなら、私はあなたが書いた通りになるということです。だとすれば私はあなたにどうしても訊きたいことがあるんです。

嘉田 大丈夫か。

未希子 大丈夫なわけないじゃないですか。自分が小説の登場人物だった

なんて。けど、受け入れるほかないじゃないですか。他に可能性
がありますか。

嘉田 あるよ！ 君が嘘をついてる可能性だよ。

未希子 ……それはないんですよね。

嘉田 だからそれを君が口で言ってるだけじゃ何の証明にもならないだ
ろ。誰だよ君？

未希子 誰？ 面白いな。私のことあれ程詳しく調べて書いておいて、親
ですら知らないことを知ってる人が「誰？」って。ストーリーカーが、
盗っ人猛々しい。

嘉田 ほとんど誰にも知られてない素人のオンライン小説だよ。ストー
カーは君だろうが！

未希子 付き合ってる人がいたんですけど、別れ話をしてきました。
は？

未希子 彼氏が他の女と浮気してるって、小説に書いてたから。

嘉田 何やってるんだよ。

未希子 だってこの本のことは全部本当だから。

嘉田 いやいやいや！

未希子 確かめたんです。

嘉田 浮気してたのか？ 君の勘違いじゃないのか。

未希子 勘違いじゃないです。間違いないです。小説の通りだったんです。

頬に古傷があることも。

嘉田 嘘だろ。

未希子 本当です。彼氏のこと全部小説の通りだったんです。

嘉田 小説の通り？ じゃあ彼氏はCーAのスパイだったのか？

未希子 問い詰めたら頑なに認めませんでした。小説と同じです！

嘉田 いやいや。本当に違うからでしょ！

未希子 先生がこんな小説書かなければ、知らずに済んだのに！

嘉田 責任転嫁するなよ。何で俺の小説を知ったんだ。

未希子 エゴサーチですよ。自分の名前でエゴサーチするのは今の時代当

然じゃないですか。

嘉田 別に当然ではないでしょ。

未希子 ……他にも私のこと調べてるんですか？

嘉田 他にっつて、何も調べてなんてない。

未希子 まあ、そう言いますよね。ストーカーは。

嘉田 信じないなら調べてるって勝手に思いたければ思えばいいじゃないか。

未希子 どっちなんですか。ストーカーなんですか？ 神様なんですか。

嘉田 どっちでもないよ。

未希子 私はいつ結婚できるんですか。

嘉田 知らないよ。

未希子 私が幸せになるように話を書いて下さい。イケメンと付き合う設定にして下さい。

嘉田 勝手に付き合えばいいでしょ。……僕の小説の未希子はここまで頭のおかしな人じゃない。

未希子 ……「未希子は、容姿もよく、思いやりがあって、不器用だが仕

事熱心で、しばしばひどい勘違いをする、それも可愛らしい。もう認めざるを得ない。僕は彼女のことを好きになってしまった」……この主人公の「僕」が嘉田さんのことですよ。会社員で趣味でつまらない小説をネットに投稿している人。

嘉田 ……。

未希子 私のこと、好きなんですよ。

嘉田 何でそうなる。

未希子 私に氣づいてほしくて、書いてたんじゃないんですか。

嘉田 ……違う。本当に君のことなんて知らなかったんだ。

未希子 じゃあ、好きって感情はない？

嘉田 さっき初めて会ったばかりで、好きも何も。確かに美人だとは思うけど。

未希子 私が、あなたの書いた未希子だったら？

嘉田 それは……。何なんだこの質問。それは、そうかもしれない。小説の未希子は自分の理想だけど。君はどうなんだ。もし僕が君の

ことが好きだったなら。

未希子 先生が、私のことを調べてたとしたら？

嘉田 うん。

未希子 気持ち悪いです。

嘉田 ……帰ってくれ。

終わり。